

○古賀 蘭子* 定行 まり子**

(*日本女大・院, **日本女大)

目的 本研究は、戦後の復興住宅として開発され、昭和 40 年代には建替えられた大規模団地である戸山ハイツを対象とし、高齢化の実態に沿った住環境整備および生活支援のあり方を探ることを目的としている。特に、現状を調査し今後の住環境整備に繋げる研究の前段階として、大都市の中心部に位置する大規模団地である戸山ハイツの人口・世帯特性を分析し、その特性を踏まえて高齢化の現状と把握及び課題の提出を行う。

方法 2000 年 5 月から 6 月にかけて新宿区役所において、住民基本台帳から戸山ハイツの居住者を対象に性別・生年月日の転記を行った。その後、入手した資料をもとに、男女別年齢構成、世帯構造の整理を行い、65 歳以上の居住者のいる世帯を抽出した。人口構造を捉え比較するために、全国は 1995 年の国勢調査より、東京都は 2000 年 9 月時点の人口推計から、新宿区は 1999 年の住民基本台帳の人口構成を使用した。

結果 全国・東京都及び新宿区の人口年齢分布と比較すると、戸山ハイツの居住者の人口分布は、50 才代以降高齢者に至る年齢層の人口が突出し、逆に働き盛りの若い一般世帯の 3、40 代及び 10 歳以下子どもの人口比率が落ち込み、きわめて歪な人口構造であることが認められた。戸山ハイツの高齢居住者の 7 割は単身者と 2 人世帯が占めることがわかった。また、後期高齢者の割合が高く、特に女性の単身高齢者、5、60 代の高齢予備軍の存在が大きいといえる。高齢世帯はエレベーターの付設されていない中層住棟 1 階に居住する割合が高いことが認められたが、エレベーターのない中層上階に居住する高齢者もかなり存在していることが明らかとなった。尚、この研究は戸山ハイツ研究会（佐々波、小川、中村、松本）との共同研究である。